

竜王東小学校 学校関係者評価書

竜王東小学校 学校関係者評価委員会作成

学校関係者評価委員会

令和3年度の学校関係者評価委員会については、新型コロナウイルス感染症の影響により実施出来なかったため、各委員より自己評価についていただいたご意見をまとめ「学校関係者評価」とした。

ご意見をいただいた方：(学校関係者評価委員)

学校評議員：佐野泰子，三井弘文，加藤富美子，石田冬子，清水 勉

保護者代表：伊藤 毅 (PTA 会長)，佐藤真理 (PTA 副会長)，

千野雄広 (PTA 副会長)

学校関係者評価としてまとめに関わった職員 校長，教頭，教務主任

I 学校側から提案された内容

- ・学校の概要，学校の教育活動について
- ・学校評価の説明及び過年度との比較及び考察

II ご意見をいただいた主な内容

①学校評価の結果について

- ・教師用・児童用・保護者用アンケート結果と考察
- ・地域や家庭での児童の生活実態について
- ・今後の課題について

②学校教育に関する事項について

- ・新学習指導要領の全面実施における内容の増大と職員の取り組みについて
- ・ICT教育に関する指導内容と整備進行状況について
- ・感染症の影響による地域との連携の課題について

<学校関係者評価書>

I 全体評価

・教職員の自己評価の結果は、ほとんどの項目で肯定的評価（AまたはB判定）の割合が90%を超えており、評価の平均値も大部分の項目で8.0ポイントを超えている。学校経営方針に基づき、学校教育目標の具現化に向けて、教職員の十分な理解のもとに教育活動が行われていると考えられる。

- ・児童アンケート，保護者アンケートの結果についても，ほとんどの項目で評価の平均値が8.0ポイントを超えており，学校の教育活動が適正に行われた結果，児童が学校生活を楽しい・充実していると考えており，保護者からも一定の理解を得られていると考えられる。
- ・職員全体が，昨年度の学校評価での課題をしっかりと受け止め，改善に向けて取り組んだため，自己評価の点でも改善が見られ成果が出ていることが分かる。

II 特徴

- ・教職員の自己評価，児童アンケート，保護者アンケートの結果はいずれも甲斐市全体の調査結果とほぼ同様の結果となっている。他の学校と比較しても竜王東小学校では適正な教育活動が行われており，児童や保護者からも一定の評価を得ていると考えられる。
- ・学習に関する児童アンケートでは「先生はよく勉強を教えてくれる」「国語・算数の授業の内容がわかる」の評価が上がっている一方で，「人前でしっかりと自分の意見を言うことができる」の項目については評価がやや低い。自分の考えを積極的に表現することが本校の児童の課題であり，普段より「話すこと」の取り組みに力を入れている教職員も増えた。しかしながら，思うように指導の成果が出ていないことが気になる。指導の改善に向けた研修・研究に力を入れていく必要性を感じた。
- ・学校の特色である縦割活動，ノーチャイム，オープンスペースを活かした活動に力を入れていることが良いと思った。特に，ノーチャイム制度は児童の自立を促し，自分で考え自分で行動することを実践していると感じる。学校教育目標にも適っている。これからも特色のある活動の継続を望む。
- ・読書活動においては「全く読書をしない児童」が減ってきていることは良いことだと思う。国語力向上には欠かせない。これからも「全く読書をしない児童」を減らすように，図書室との連携を図り指導をしていきたい。

III 今後の課題として意識されたいこと

○学校教育目標の達成状況について

- ・今年度も新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい，学校の教育活動において多くの変更があった。新学習指導要領における内容の増大など負担が増えている。「働き方改革」についても難しいと感じた。そんな中，多岐にわたり細かな計画のもと丁寧な指導を行っている職員の努力が見られる。早くコロナ禍を抜け出し，通常の教育活動が行えるように願っている。今後は，職員の協働意識を更に高め，より信頼し合い教育活動が行えるように一丸となって取り組んでいくことが大切である。その上で，細かな部分で「働き方改革」を積み上げるようにしていくことが必要だと感じている。無駄な部分，合理的に考える部分，共有することができる部分など細かに見直し，少しでも良い環境を作るようにしていく。

○ICT 教育の充実について

・ ICT 機器を活用した教育活動はこれまでもやってきてはいるが、GIGA スクール構想において一人一台端末が配布されたことによって、新たな課題が増えている。端末のリテラシーの部分や、教育課程での使用単元の洗い出し、指導方法など課題は多岐にわたっている。それに併せて、家庭への持ち帰りにおけるオンラインの整備と使用上の注意などやらなければならないことは多い。今年度は、校内研での取り組みを行うことで、リテラシーの向上や授業での活用方法など見えてきたものもある。今後は、更なる改善のために校内研究等を利用し、ICT 教育の推進を図っていきたい。

○地域への情報発信と今後の連携について

昨年度と今年度と2年連続のコロナ禍となり、地域との関わりが薄くなってきている。地域の住民が学校を訪れ学校の様子を見たり、学校ボランティアとして教育活動に参加したりすることが出来なくなった。そのため、学校とのつながりが希薄となりつつあると感じられる住民が増えている。今年度の学校からの発信はHPが中心となったが、地域の住民はHPをそれほど見ていないようである。学校だよりを定期的に地域に回覧したり、地域への会合に出席したりしながら学校の様子を伝えていく必要があると思われる。また、コロナ禍ではあるが、感染症が終息したときのことを考え、常に地域の方々が学校の教育活動へ参加出来るような下地を作っていく必要があると感じる。来年度に向けて、年度末より準備をしていくつもりである。今後も、児童の健全な成長に向けて学校と保護者、地域とが一体となり、「チーム竜王東小」として、相互の連携をより一層図りながら、協力して子どもたちの指導に当たっていく必要がある。

※特記事項 なし

記載責任者（竜王東小学校 学校関係者評価委員） PTA会長 伊藤 毅 印